



蓬萊町だより

昭和十年十月十日
第60号
発行集
編者蓬萊町会

蓬萊町界限(その九)

本郷追分から慎町へ

林 順 信

◇「ウナキナワテ」の蓬萊町

追分という言葉は、街道が二つに分かれるところにつけられている地名である。全国には約六十の追分があるが、なぜか四国には追分の地名は一つもないと言われている。本郷追分というのは、現在の東大農学部前の酒屋高崎屋の二又のところ、ここが、お江戸日本橋から丁度一里目にあたり、左へすれば中仙道、右へすれば岩槻街道(一名奥州街道)である。戦前の町名では、高崎屋は東片町八番地だったが、戦前まで店わきに「塞大神」という碑が祀られていたが、今日は、根津神社境内に移されているという。駒込蓬萊町はこの岩槻街道に面し、南は旧一番地の浩妙寺から、北は四十六番地の十方寺に至るまで、かなり長い一直線の往還の東側を占めている。嘉永六年や万延二年の「江戸切

絵図」に、「ウナキナワテト云」と出ている。昔、この辺の左右に植木屋が多く、「植木繩手」といっていたが、この辺が大番組や御先手組の屋敷となった後も植木屋が多いのでそう名付けたという説と、往古、この往還に、茶店があり、その中にすぐれた女がいて、その名から、「おなき繩手」と呼んだという俗説と、湯島山浄心寺の寺伝によると、この辺は古くからの街道で、左右に苗木があるので、「なへき繩手」から、あやまって「うなぎ繩手」となったという説と論説がある。

深川に小名木川というのがあって、行徳の塩を江戸に運ぶべく開かれた人工運河で、一直線の長い長い堀割川を、「おなぎ川」と呼んで来たが、長い一直線のことを「おなぎ」とか「うなぎ」とか呼ぶならわしかも知れない。今日、知らず知らずに、スピードの出る、蓬萊町の街道で、よく車のスピード違反の取り締りがあるのもうなづける。

◇大谷石の駒込郵便局

私の子供時分の岩槻街道の西側は、蓬萊町の向かいの、現在開隆堂の倉庫になっている背後一帯は、広い原っぱで、雑草が膝くらいまで生い茂っていた。南側と西側は、背の高い赤煉瓦塀で仕切られたお寺の墓地で、この原っぱへの出入りは自由だったから、夏のとんぼとりや、せみとりや秋口のばった(オートと呼んだ)と

りに興じた絶好の遊び場だった。南と西の高い赤煉瓦塀へのぼるのは相当の難儀だったが、塀に沿って植えられた大樹には、ミンミンゼミがたくさん鳴っていたので、せみとりのために何度ものぼったことがある。

原っぱから出たところのミカミ理髪店は今もあり、看板の片仮名は、右から読んでも左から読んでもミカミだ。ミカミ理髪店から北へ歩くと、牧野時計店があって、時計の修理を何度か頼んだ。戦前の店舗はいかにも時計屋然としていて、鼻の高いご主人は、いつも修理用の眼鏡をかけて店頭で仕事にとり組んでいた。つい先日、この主人と都バスの中で会った。牧野時計店から北へ少し歩くと、昭和十年頃の大通りでは一きは目立つビルが、東電のビルで、現在もそのビルはフィルムズの現像所として残っている。その手前の一井さんは現在、ガレージと住居とがあるが、戦災で燃えるまでの一井さんは、白髪の老医師のいた一井病院であった。内科小児科の一井先生には、病弱だった私は、どれだけお世話になったかわからない。一井先生は鳥取県出身だったから、私の家の本家のある岡山県とはお隣りだったので、よく覚えていた。玄関に入ると、ドイツの飛行船のツェッペリン(昭和四年に日本に求訪したことがある)の模型が天井から下げられていたのが印象的だった。一井先生のお嬢さんもお医者さんになられたと

聞く。

東電のビルは、何の変哲もない長方形のビルなのだが、当時は「トウランブ」の宣伝用ネオンがあった様に思う。昭和十七年に、東電は東京市の電灯と合併して、関東配電となった。その北の、現在都立向丘高校となっているところには、東京市駒本尋常高等小学校と、その隣りに、駒込電信電話局とがあったのが想い出される。

蓬萊町の子供達は、ふつう駒本小学校に上がった。駒本小学校の正面からはかなり長い石を敷いた道がついていて、校内に入った右側には、東西の方向に長くプールがあった。このプールは地面から下に掘り下げたのではなく、地上にコンクリート塀を拵えて囲んだ中に水をためたやり方のプールだった。駒本小学校の木造二階建ての校舎は、長い年月を経て濃い茶褐色になっていた。駒本小学校は駒込肴町十六番地にあった。創立は明治九年と古い学校で、最初は追分町三十番地にあったが、後日肴町に移転し、明治三十三年（一九〇〇年）に二階建て校舎が落成した。戦後は、跡地を都立向丘高校にゆづり、駒本小学校は大林寺のそばに移転した。

駒本小学校の裏手一円と、北隣りにかけて、あったのが、駒込電信電話局（東片町五十四・五十五番地）で、表玄関は中仙道に面していたのだろうが、岩槻街道の方にも入口があって、

現在でいうなら、都立向丘高校のテニスコートのネット辺に入口があったのだろう。この駒込郵便局は、珍らしくも大谷石で出来た大きな郵便局で、二等郵便局だった。だから本郷区には、二等郵便局が、本郷と駒込の二つもあったのは、都内では珍しいことであった。大谷石の持つうすみどり色の建物が特色があった。中に入ると、うす暗くただっ広い中に、なだらかな六角錐の机があって、その上で、手紙や書類に字を書き込んでいる人々が大勢いた。郵袋をドストドスーンと、局の板間に放り出す音が、今でも聞こえて来る様だ。この郵便局は、昭和二十年三月十日の東京大空襲で灰燼に帰し、戦後は再び復活することがなかったのは惜しまれる。

駒込郵便局について左に入る横丁は今もある大円寺（ほうろく地蔵）への道で、その右側角にあるのが、石工の酒井八右衛門商店で、この酒井八右衛門は、根津神社の天水桶を始め、東京に限らず近在一円に神社や仏閣のあげ物に時たまその名を見る程の名工だった。酒井八右衛門から北の肴町の角までには、山本棒や、亀屋薬局、オリンピッククパン、高級洋菓子の銀扇があった。

何もかも手に入る現在ならとも角、昭和十年頃に、蓬萊町界隈で最も高級なケーキを食べるとしたら、肴町交差点近くの銀扇に行かなければならなかった。模様入りのタイルが店内に敷

きつめられ、天井には、銭湯や映画館にあった様を、まるで飛行機のプロペラの様を扇風機がくるくると廻っていた。おいしいアイスクリームが食べられたのもこの銀扇だった。この銀扇は、戦争が激化するにつれて、ケーキやアイスクリームどころではなくなり、戦災で焼けて戦後はついに復活しなかった。

肴町の交差点から白山上にかけて横丁が横町と呼ばれている商店街である。近くに幕府の御用村の千駄木をひかえたこの辺のことだから、まきを商う店でも出来たのが名の起りかも知れない。大円寺の前を竹町と呼んでいたが、現在でも大きな竹屋が一軒残っている。この界隈お寺や組屋敷などの多かった江戸時代から、日用品を買いとなれば、横町にやって来るのが最も便利だったのだろう。今回からしばらくは、横町の周辺について書きたいと思う。



納涼盆おどり大会を終えて

青年部長 大畑 清心

八月二十五日より、三日間にわたり天候にもめぐまれ、無事に楽しく終ることが出来ました。今回は青年部発足十周年と言うことで、諸先輩が残して下さった足跡のひとつの区切りという事で、我々青年部会員は、早々に四月より準備にとりかかりました。

記念行事のテーマは何にすべきか。

夢大きい青年部、内容はふくれあがるばかりでしたが、何よりも町内の一人でも多くの方に楽しく参加していただける納涼の夕べに、と意見がまとまり、まず第一日目は盆おどり、二日目はカラオケ大会、三日目盆おどり、と三日間の予定を組むことからスタート、メインの中日のやり方、まったくカラオケ大会等始めてあり、出場者に、聞く人と、人が集まるだろうか？、頭痛のタネ、「雲をつかむ思い」とは、こういう時に出る言葉なのだ痛切に感じたものでした。

(3) 参加者の呼びかけに、随擬店、抽選会、という話に話しがまとまり、これは青年部会員だけではとても手が足りない大変な企画をしたのだと、タノ息の連続、しかし模擬店は以前より青年部が盆おどりの中で子供達に楽しん

たどくということとで前々から意見が出ていたのだ、この際思い切ってやってみようということになりましたが、いざとなると、なかなか大変な準備でした。

又、抽選会につきましては、町会の会員の、皆様が、一人でも多く、この納涼大会を理解し、協力をしていただけるかということで、一軒一軒の会員の皆さんに抽選券を、お配りしたわけです。

カラオケ大会につきましては、何から手をつけたら良いものやら思案しましたが、ポスター、チラシ等で、参加者を募りましたが、なかなか集まらず、最後迄心配しましたが、当日には多くの方々に、出場していただくことが出来ました。

司会者も、タレントを特別を計らいで紹介いたどくことが出来、初めてとしては、カラオケ大会らしく終了することが出来ました。

三日間にわたり、大人も子供も、楽しく、すごしていただくことが出来、我々青年部もやりがいがありました。

最後に、全面的協力いただきました、町会役員の方々を始め、婦人部の皆様、又御寄附をいただきました方々、ポスター、舞台等と、御力添え下さいました中央宣伝さん、この紙上をおかりして、心より厚くお礼申し上げます。

蓬萊俳壇

8月19日 海蔵寺

兼題 八朔・深川祭

天 切れ長の眸に二度出逢う螢の夜 ひろし
 地 朝露や路地馳ぬける新聞夫 夢雨
 人 炎昼や墨にも水たしてあり 喜一
 人 秋まつり「深川亭」の掛行燈 連木
 八朔やはやりやまびの宮大工 沛雨亭

兼題 9月18日 海蔵寺
 兼題 菊人形・盆おどり

天 その底に残る暑さや袋町 寿恵
 地 かなかなと鎮魂の唄上野村 真幸
 人 御霊みたま抜く稲荷の祠秋立てり 喜一
 黄菊着てかんばせ白き菊人形 笑子
 夕陽射す細い坂道百日紅 千重
 よみがえる若さの揃い浴衣かな ひろし

蓬萊句会は毎月夜六時から開かれております。参加はご自由です。のでどなたでもお気軽にお出掛け下さい。

尚、日程及び場所は、池田(八二三・一三六五) 亦は、翁(八二八・二七三七)までお問い合わせ下さい。

町会活動の概要

昭和60年7月から9月中旬まで

総務部

9/6 町会各部担当部長会・開催

昭和60年度、各部予算額を審議

9/7 昭和59年度、町会総会開催

総会に於て可決されました昭和59年度決算報告並びに昭和60年度予算書は、本号に登載いたしました。

よろしくご高覧を賜りまして、総会報告といたします。

防犯部

当町内においても盗難の被害が数多く発生しております。戸締りを忘れず、また、お出掛けの時は近所の方に一声かけて、町内からの盗難防止に協力しましょう。

防火防災部

本年度から防火部を防災部と統合し、防火防災部と改称いたしました。

9/1 「文京区総合防災訓練」実施

当日の訓練には、会員皆様に回覧によって参加をお願いしましたところ、酷暑の中、多数(45名)の方々の参加を得まして、災害発

生時に対処する種々の知識を体得して頂き、無事訓練を終了いたしました。

◎午前9時45分、避難誘導開始、東大農学部グラウンドへ、グラウンドに於て、文京区民二、六〇〇余名参加のもとに諸事の訓練が正后まで実施された。

交通部

「秋の全国交通安全運動」が9月21日から30日まで実施されます。

婦人部

8/25、8/27 「納涼盆おどり大会」本年は模擬店の催しもあり、青年部と共催で婦人部全員が参加、売子を担当しました。

9/9 「敬老の日」の行事として毎年、海蔵寺に於て釣友会のご厚志により催される「天ぶら会」に本年も接待・準備・かたづけ等のお手伝いをしております。

9/15 「敬老の日」当町会からのお祝品を婦人部員がお届けいたし、ご長寿のお祝いを申し上げます。

青年部

8/25、8/27 本年の「盆おどり大会」は、青年部結成10周年に当りますことを記念して町内皆さんに十分楽しんで頂ける様、模擬店

カラオケ大会など趣向をこらしましたが、如何でしたでしょうか。連日大勢の方々のご参加を頂き、また、ご寄進も賜りまして、予期した以上の盛り上りで無事終了できましたことは、町会員皆様のご協力のたまものと厚くお礼申し上げます。

計 報

当町会にお住いの方で、7月から9月中旬までの間にご逝去された方々のご氏名は左記のとおりでございます。謹んで弔意を申し上げ御冥福をお祈りいたします。

記

金澤ハナ様 永田栄吉様

昭和六十年年度総会、決定事項

従来毎月一回開催しておりました、役員会を、本年度より、二月・四月・六月・八月・十月・十二月の各月十二日に開催する事に決まりました。尚、緊急を要する事項のある時は、臨時役員会を開く事とします。

亦、緊急を要する通達のある時は逐次、各部、各役員に配布します。

海蔵寺（曹洞宗）

衆知の通り、海蔵寺の現住職、久貝貫一氏は現在蓬萊町会々長として意欲的に町会員のために尽され、町会の各行事、打合せの会合等ほとんど全てと云って良い程の集まりの会場を私共のために提供されております。

この寺の沿革は、この地域の寺の中でも特に古く、開創年代については三説があり、

- (1) 永正年間（一五〇四〜一五二〇）に勝庵宗最禪師によって草庵が結ばれ、後延享四年（一七四七）、徳川幕府より駒込村の地域（現在地）に八石の朱印を賜ったという説。
- (2) 橋湯（現在の台東区内）にある総泉寺の末寺として、本郷追分に六千四百八坪の土地を拝領し、併せて御朱印寺領として八石を賜ったという説。
- (3) 勝庵宗最禪師を開山として、天文年間（一五三二〜一五四四）に現在の和田倉門内に創建され、その後、明暦年間（一六五五〜一六五七）に拝領八石を賜って現在地に移転して来たという説。

- (5) その後、当寺の第二代住職として、永平寺から独洲竜大和尚が普山され、曹洞宗としての現

在の海蔵寺の基盤が確立されました。

享保三年（一七一八）十二月五日、小石川辺を火元とした火災によって諸堂すべてが類焼し、この火災の折、住職は、小田原の最乗寺（道了尊）に輪住として出仕していたため留守であったと伝えられています。

明治維新後、荒廃していた当寺に明治二十三年（一八九九）第二十三世大転豊隆和尚が住職として入山し悪戦苦闘の末、ようやく往時に近い姿まで復興されました。この寺は先きの戦災にも焼残り、当時焼け出されて雨露をしのご場処もない罹災者のために戦中後数年に及んで本堂その他が開放され、まさに救済済世の中心でありました。

現在、寺内に残る著名な墓碑石は寛永十年（一六七一）から享保十八年（一七三三）頃、江戸庶民に富士講信仰を広め、富士山七合目の岩室で断食入定した。富士身祿行者の墓。また、相撲の横綱土表入りで、雲竜型、不知火型の二つがありますが、不知火型は両手をひろげてせり上り、雲竜型は片手を広げてせり上る型です。その雲竜型を定着させたのが第十代横綱、雲竜久吉で、慶応元年（一八六五）二月に四十二才で引退し、引退後は、年寄り、追手風となり、筆頭（理事長）をつとめました。

この人は、現在の福岡県山門郡大和村の出身で、文政六年（一八二三）の生れ、はじめ大阪相撲

の陣幕部屋に入り、二十四才の時、江戸に出て来て、追手風部屋に入りました。横綱を許されたのは三十八才の年で、最盛期には一米七八、体重七八キロ強であったといえます。当寺には追手風初代、和田ケ原小太郎、綾浪徳太郎、黒柳松五郎、綾渡り政松、和田ケ原甚四郎（大嶽）藤島代々、富士ケ根代々、湊川代々等相撲関係の人達の霊が祀られています。

編集部

諸般の事情で、六十年度の総会が遅れまして、総務部報告の通り、九月七日に無事終了しました。本紙末に決算・予算書を掲載しました。本年は、根津神社のご祭祀期間中天候が悪く、お祭りに参加された町内では何かと困られた様でしたが、当町会は陰祭りで触りはありませんでした。来年は、本祭りですので、またよろしくお願いいたします。

町会運営をらびに編集の事でご意見がありましたら随時、編集委員までお申し込み下さい。

編集委員

小林音吉 竹中一馬 猪熊良晃
高橋一郎 翁 松夫 池田 暉

◎次回の発行は来年二月を予定しております。

昭和59年度決算報告書

昭和59年4月1日～昭和60年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
繰越金	0	区より	総会費	110,010	会場費及茶菓子代
町会費	1,265,350		会議費	249,490	役員会会場費茶菓子代
補助金	174,000		総務費	49,980	部会及研究等に
寄付金	32,000		渉外費	108,450	関係団体等
雑収入	117,580		備品費	55,580	維持費・購入費
銀行利息	3,615		事務費	99,250	
			通信・交通	56,000	
			電気代	61,738	防犯灯, 維持費含む
			防火部	34,600	防火訓練費他
			防犯部	37,400	防犯訓練費他
			交通部	78,660	交通安全運動費他
			衛生部	19,500	
			文化部	182,585	蓬萊町たより, 成人, 新入学祝
			婦人部	137,180	敬老費他
			青年部	200,000	部費
			慶弔費	49,000	
			消耗品費	0	
			繰越金	63,122	
合計	1,592,545		合計	1,592,545	

昭和60年9月7日

収支決算上記の通り報告します。

町会長 久貝 貫一 印

会計 川西正造 印

上記の決算相違なき事を証明します。

会計監査 原 典順 印

昭和60年度予算書

昭和60年4月1日～昭和61年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
繰越金	63,122	前年度より	総会費	130,000	会場費及茶菓子代
町会費	1,200,000	(区より)	会議費	100,000	役員会会場費茶菓子代
補助金	169,000		総務部	100,000	部会及研究等に
雑収入	150,000	銀行	渉外費	120,000	関係団体等
利息	3,000		備品費	100,000	維持・購入費
			事務費	100,000	
			通信・交通費	60,000	
			電気代	70,000	防犯灯維持費含む
			防火防災部	50,000	訓練費他
			防犯部	50,000	夜警等に
			交通部	60,000	安全運動費他
			衛生部	20,000	
			文化部	160,000	蓬萊町たより, 成人, 新入学祝
			婦人部	150,000	敬老費他
			青年部	200,000	部費
			慶弔費	30,000	
			予備金	85,122	
合計	1,585,122		合計	1,585,122	